



TITLE:

君主制の比較憲法学的研究(Abstract_要旨)

AUTHOR(S):

榎原, 猛

CITATION:

榎原, 猛. 君主制の比較憲法学的研究. 京都大学, 1966, 法学博士

ISSUE DATE:

1966-03-23

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/211748>

RIGHT:

【 16 】

氏 名	榎 原 猛 え はら たける
学 位 の 種 類	法 学 博 士
学 位 記 番 号	論 法 博 第 12 号
学位授与の日付	昭 和 41 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当
学 位 論 文 題 目	君主制の比較憲法学的研究

論文調査委員 (主 査)
教 授 大石義雄 教 授 須貝脩一 教 授 杉村敏正

論 文 内 容 の 要 旨

この論文は、第一編君主制度の概念および第二編君主制度の種類の二編から成り、第一編は、第1章正統的意味における君主制度および第2章広義の君主制度の2章から成る。

第1章の正統的意味における君主制度というのは、主権者が一人である国家制度のことであり、第2章の広義の君主制度というのは、国家の憲法構造の中に君主なる特定の機関を有する国家制度のことである。君主が主権者であると否とを問わないのである。この論文では、君主制を広義に解し、今日およそ国家構造の中で、王位の存在を認めて、これに何らかの役割りを果たさしめている国を総称している。

第二編は、第1部と第2部に大別され、第1部では、正統的意味における君主制を、第2部では、共和国における君主制を取り扱い、各々の種類の君主制について、その憲法構造、歴史などを見た後、それぞれの種類に該当する君主国の制度を個別的に詳述している。

個々の君主制度の説明にあたっては、それぞれの歴史をはなれては理解し得ないという見地から、多くの場合、まず憲法史的背景を叙述し、次に当該国の君主制が何故にその種類の君主制に該当するかを確認し、あわせて、当該国家構造において君主が占める法的位置を知るために、その国の政治形体を検討している。

国王の権能の章では、国王大権を立法・司法・行政の三作用に関係せしめて、これを分類し、憲法典によって国王に与えられている権能を記述するととどまらず、それが実際政治においてどのように行使され、運用されているかを、多くの資料を集めて検討している。そして、最後に、その国の君主制の特徴を概説している。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

この論文は、現代における世界各国の君主制を比較憲法学的見地から整理分類し、君主制に関する客観的な基礎的資料を提供することを目的としている。一定の世界観から、君主制に批評を加え、そのあり方

について一定の見解を表明し、またその将来を予見することはしていない。

わが国において、今日まで、君主制そのものをとり上げて、これを比較憲法学的立場から研究した著書としては、佐藤功著「君主制の研究」があるだけである。佐藤氏のこの著書も、君主制の比較憲法学的研究である。しかし、そのとり扱われている対象は、近代諸憲法に現われた君主制として、主としてイギリス・フランス・ドイツ・ベルギーおよび北欧3国の君主制にかぎられている。

しかるに、この論文では、対象としてとり上げた君主国は21か国、現存する君主制はほとんど網羅している。のみならず、とり上げた君主国の個々の説明の詳細なことおよび体系的な分類整理は、この論文独自のものであり、この分野における学問的価値は極めて大である。

よって、この論文は法学博士の学位論文としての価値あるものと認める。